

■教育行政のポイント

次期指導要領の“キーワード”

菱村 幸彦

中教審における次期教育課程の審議も大詰め近づいた。7月19日、初等中等教育分科会の教育課程部会に「総則・評価特別部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会における議論の取りまとめ(案)」(以下「とりまとめ案」)が報告された。中教審は、この「とりまとめ案」と他の教科部会の議論を基にさらに検討を進め、8月中にも「審議のまとめ」を公表し、年内には答申の予定という。

ここで「とりまとめ案」の内容を取り上げる紙幅はないが、昨年公表された「論点整理」と今回の「とりまとめ案」を基に、次期学習指導要領のキーワードについて考えてみたい。

社会に開かれた教育課程

これまで指導要領の改訂のたびに、改訂を象徴するキーワードが流行った。改訂順にみると、「コア・カリキュラム」(1947年)、「系統学習」(58年)、「教育の現代化」(68年)、「ゆとりと充実」(78年)、「新しい学力観」(88年)、「生きる力」(98年)、「確かな学力」(08年)などである。この伝でいくと、次期改訂のキーワードは何になるか。

考えられるキーワードは三つある。

第1は「社会に開かれた教育課程」。文科省は、次期改訂を象徴するキーワードとしてこの言葉を強調している。「論点整理」も「とりまとめ案」もこの言葉から始まっている。

「社会に開かれた教育課程」の意義について、「論点整理」は、[1]よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を教育課程を介して社会と共有すること、[2]社会に向き合い、人生を切り拓いていくための資質能力を教育課程で明確化し育てていくこと、[3]地域の人的・物的資源を活用するなど、学校教育を社会と連携しながら実現すること、と解説している。

しかし、[3]はともかく、[1]と[2]の説明は抽象的で分かりにくい。それに過去に流行ったキーワードは、いずれも2語の組み合わせ。3語の組み合わせは、キーワード向きではない。

カリキュラム・マネジメント

第2は「カリキュラム・マネジメント」。「論点整理」は、カリキュラム・マネジメントについて、[1]各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科横断的な視点で、目標達成に必要な教育内容を組織的に配列

すること、[2]教育内容の質の向上に向けて、教育課程の編成、実施、評価についてPDCAサイクルを確立すること、[3]教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を効果的に組み合わせること、と解説している。

「とりまとめ案」は、カリキュラム・マネジメントの実施に資するため、指導要領の「総則」の構造を刷新するという。そして、[1]教育目標と育成すべき資質・能力の明確化、[2]各教科等を学ぶ意義と教科等横断的な視点を踏まえた教育課程の編成、[3]各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実、[4]学習評価の充実、[5]学習活動の基盤作り、キャリア教育、特別な配慮を必要とする児童への指導等、[6]家庭・地域との連携・協働、チーム学校—等の観点を踏まえた章立てにすることを提案している。

カリキュラム・マネジメントは、従来から各学校で教育課程の編成を通して行っていることで、格別目新しいことではない。しかし、総則にカリキュラム・マネジメントの観点が詳しく示されるとなると、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方が大きく変わる。その意味では、次期指導要領の重要キーワードといえる。

アクティブ・ラーニング

第3は「アクティブ・ラーニング」。アクティブ・ラーニングについて、「論点整理」は、[1]習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた「深い学び」、[2]他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」、[3]見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が重要と指摘している。「とりまとめ案」は、その後の議論を整理し、深い学び、対話的な学び、主体的な学びの考え方をさらに深めている。

アクティブ・ラーニングという言葉は、諮問の段階から教育界の注目を集め、あっという間に広まった。諮問から今日まで教育雑誌は繰り返し特集を組んでいる。アマゾンで検索すると、アクティブ・ラーニングに関する図書の出版は、すでに350冊を超えている。アクティブ・ラーニングが次期指導要領の改訂を象徴する一番のキーワードとなることは間違いない。

(ひしむら・ゆきひこ=国立教育政策研究所名誉所員)

●小・中学校に求められるALの取り組みが、この1冊でバッチリわかる！ アクティブ・ラーニング実践の手引き

【著者】田中博之 B5判・208頁／定価(本体2,200円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

アクティブ・ラーニング 実践の手引き

各教科等で取り込む「主体的・協働的な学び」
田中博之 著
アクティブ・ラーニングのとはえ方
授業のつくり方
校内での進め方まで、
この1冊でバッチリわかる！

